

平成5年(1993年)5月12日(水曜日)

健康歳時記



厚生省の調査によるとお年寄りのボケは全国で百万人を突破、2010年には65歳以上の人のうち213万2千人が痴ボウ症になると予測されている。もし自分がボケになったら「...」という不安は、高齢者にとっては、いままはかりしれないものがある。

とくに心配されるのが、喫煙がボケに及ぼす影響だ。

70歳以上の人がボケる確率は、喫煙本数と比例しているともいわれている。

タバコとボケ

タバコを毎日吸う人は、吸わない人に比べて、平均5年早く年をとるといっ。つまりタバコを吸う人は、タバコを吸わない5歳年上の人がボケになる危険率を、すでに先取りしている「わけだ」。

ボケは脳の血液循環の低下と、深いかわりがあるが、タバコは血管を収縮させる作用をもっている。

「禁煙してもすでに手遅れ」とあきらめてしまっている人がいるが、じつは、禁煙による効果は若い人よりも高齢者に早く現れる。

唾液腺にも「石」ができる

体のできる「石」としては胆石が有名だが、それ以外にもいろいろある。「石」がある。唾液腺(せき)もそのひとつだ。唾液中の無機質、とくにカルシウムが石のようにかたまったものだ。こんな石は舌(そ)でも「シス」はひびくもな

ん、舌下腺(せつかせ)の3種類の唾液腺がある。この唾液腺からはさらに口内に伸びる細い導管が出てくる。

多くできるのは顎下腺

それらを石がたまり、まじり具合が悪いのは「シカ」もよくある。まじり具合もよく



うよつ)がきたりする。また、急にはれて激しい痛みに襲われる。この痛みを唾液腺痛(せきせき)といったりするが

できるのは顎下腺だが、当然、原因となる唾石(せき)が、唾液の流れが悪くなり、細菌がたまってしまつて炎(えん)やリン酸カルシウムが析出(せき)を起したり、膿瘍(のう)のしてできるものだ。大きき

自然に排出される場合も

唾石が発見されたら、それを取り除くことが治療のすべてといつてもいいだろう

う。自然に排出される場合は別として、唾液腺の先端部分にある唾石なら、顎下腺あたりをマッサージして自然に出てくるのを促進させる方法もある。

しかし、多くの場合は手術をして取り出すことになる。細い導管にある石なら切つて除去できるが、腺内にあるときは腺体ごと取り出すことになる。

手術はそれほど心配する唾液腺炎になる前に手術で除去

治療はやはり手術で

カルシウムが石のようにかたまり

口の中には耳下腺(じか)せん、顎下腺(がつかせ)

は米粒大からハトの卵ぐらいのものまでいろいろだ。できるのは、結石(けつせき)のときやすい体質であること、あるいは唾液腺の炎症が関係しているようだ。

小さい石ならほとんど障害を起さずに自然に出てしまつ。しかし、大きいものになるとそうはいかない。手術によって除去することになる。

大きいものは手術で除去

あごのところがはれたり、食事中など唾液が多く分泌されるとき、あごの下や耳の下に強い痛みを感じることはしばしばあったら、専門医の診察を受けることだ。

レントゲン検査でよほどのことでない場合は発見できる。ついでに「唾液腺」ができたときと同じような症状を示す病気にシェーグレン症候群(せーぐれん)とか、唾液腺炎(せきせき)が原因のことが多(お)い)などもある。だから、レントゲン検査でチェックしておく必要があるのだ。

これもないし、はれや痛みさらに唾液腺炎(せきせき)を考(かん)えれば放置してはあけ(あ)まい。